



兵庫医科大学病院全景

笑顔でコミュニケーション 豊かな病院を目指して

4月1日付で新病院長に太城力良主任教授が就任しました。



兵庫医科大学病院
病院長 太城 力良

新病院長あいさつ

兵庫医科大学および病院は1972年4月に開設して以来、地域の皆様・関係各位に支えられて、年間約30万人の入院患者さん（うち手術数8000件超）および

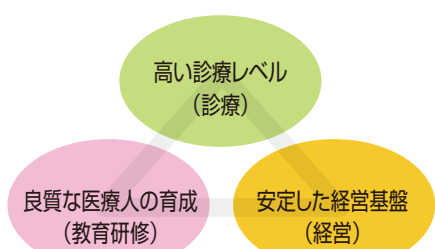
約60万人の外来患者さんの診療を行うまでに発展してまいりました。組織的には34の診療部と救命救急センター、がんセン

ター、PETセンター、健診センター、I B D（炎症性腸疾患）センターなどの26の中央診療施設に細分化してきめ細かな診療体制を提供し、標準的な治療はもちろん、高度で先進的な医療も提供しています。今後、さらに患者さんに満足して頂くために、教職員間のコミュニケーションをさらに向上させて、病院全体が一つの有機体として機能できる体制を目指していきます。また、患者さんご自身が、ご自分の病気や治

療の内容を十分に理解して積極的に医療に協同参画していただけるように、患者さんと教職員との良好なコミュニケーションを達成し、患者さんの思いや他院で受けてこられた治療内容などをきちんと把握できるシステムの充実にも努めたく思っています。

また、成人看護、クリティカルケア、救急看護、感染、緩和ケアなど多岐にわたる各種の認定看護師を臨床現場に配置し、総合的な看護力の強化にも努めております。

現在、私どもは安全で質の高い医療とは何か、それが実践出来るか、改善すべき点は何かを常に問いかけ見直し、患者さんとともに変革し続ける中で、患者さんや地域の医療機関から絶大な信頼が得られる病院づくりを目指しています。



PET/CT検査

現在の政治、経済、社会の混乱、世界の金融・経済危機を反映して、大学病院も試練の時代を迎えております。医師・看護師不足、地域医療の崩壊、若手医師の大学病院離れ、医療事故などの多くの社会的問題もあります。このような状況ですが、本学病院での研修希望者は多く、約100名の初期研修医が、400名を超える医師（歯科医師を含む）の指導下に、人間性豊かで診療に優れた医療人を目指して研鑽を続

けています。また、成人看護、クリティカルケア、救急看護、感染、緩和ケアなど多岐にわたる各種の認定看護師を臨床現場に配置し、総合的な看護力の強化にも努めております。

患者さんが良くなりその笑顔を得るためには、兵庫医科大学病院の教職員が心身ともに健康で元気に笑顔で接することが重要だと思います。患者さんを含めて意見交換する場を設置し、英知を集めて、より開放性・透明性ある民主的な病院、患者さん参加型の病院にしたいと思っています。連携をお願いしている病院、診療所、介護施設などとも活発なコミュニケーションを行い、ご助言、ご協力を受け賜りたく存じております。

患者さんの権利

- 良質で安全な医療を平等に受けることができます。
- 病気や治療について、わかりやすく十分な説明を受けることができます。
- 診療内容をご自身で選択することができます。
- 診療内容について、他の医師の意見を聞くことができます。
- プライバシーは常に保護・尊重されます。

患者さんへのお願い

- 診療を受けるにあたって、健康状態、お薬の服用状況、その他必要なことは、情報提供してください。
- 診療は患者さんと協同して行いますので、積極的に診療にご参加ください。
- 病院のルールを守り、他の患者さんのご迷惑にならないようご協力ください。
- 教育・研修機関として、医学生、看護学生等の臨床研修実習を行っております。ご理解、ご協力をお願いいたします。

病院のルール — 患者さん及びご家族等の皆さんへのお願い —

当院では、患者さんの権利を認識、尊重し、その安全を確保する体制の整備に努めるとともに、患者さんとの信頼関係に基づき、良質で安全な医療が提供できるよう努めております。

当院では、「兵庫医科大学病院入院及び外来診療規則」の中に患者さんの権利や病院の秩序維持などを定め、これを基本として具体的に次のことを病院のルールとしておりますので、守っていただきますようお願いいたします。

- 他の患者さんや職員に対する暴言、暴力行為、威嚇行為、その他迷惑行為は行わないでください。
- 円滑な診療等を妨害するような行為は行わないでください。
- 病院内では静粛を保ち、病院の設備や器物等は大切に扱ってください。
- 病院内はもとより敷地内も禁煙となっておりますので、守ってください。
- 飲酒されてのご来院はお断りします。また、病院内は禁酒となっておりますので、守ってください。
- 医療費の支払い請求を受けたときは速やかにお支払いください。
- その他、病院の各種パンフレット等に記載しております事項を守ってください。

上記ルールに反する行為が執拗に続く場合は、診療をお断りしたり、院外退去を求めたりすることがあります。また、当該行為の事実に関して、録音・録画等を行うことがあります。なお、当該行為が診療等の妨害行為となれば、警察に通報することがあります。

兵庫県肝疾患診療連携拠点病院

肝臓病はわが国の国民病であり、毎年肝臓で3万4千人の方が亡くなっております。また、肝臓の大部分は300万人と推定される肝炎ウイルスキャリアから発病するため、肝炎ウイルスに対するインターフェロン（IFN）治療は肝炎がんの抑制に繋がります。

す。このため、国は平成20年4月よりIFNに対する治療費助成制度を開始しました。さらに、肝疾患診療連携拠点病院（以下拠点病院）を各県に認定し、肝炎治療のレベル向上を目指しています。兵庫県では、肝臓病治療における兵庫医科大学の伝統と医療レベルの高さを国や県から評価いただき、昨年4月に県内唯一の拠点病院に選定されました。

①他の専門病院とともに肝炎診療のネットワークを作ること、
②肝疾患専門の患者相談センターを設立すること、
③医療従事者に対する

肝臓病治療に関する研修を行うこと、などが挙げられます（図1）。本学は、幸いなことに学内に5名の肝臓学会評議員が在籍し、また多数の専門医を擁しておりますので、医局間の連携を強化すればこれらのニーズに対応可能です。そこで、肝疾患に関する最高の医療を目指し、拠点病院の役割を担うために肝疾患センターが新設されました。

肝疾患センターの運営は、主に肝胆膵科、肝胆膵外科、および放射線科に所属する肝臓

専門医が本センターに兼務することにより、合同で運営を行います。さらに、多くの診療科の支援を頂き、拠点病院に求められる業務に幅広く対応いたします。

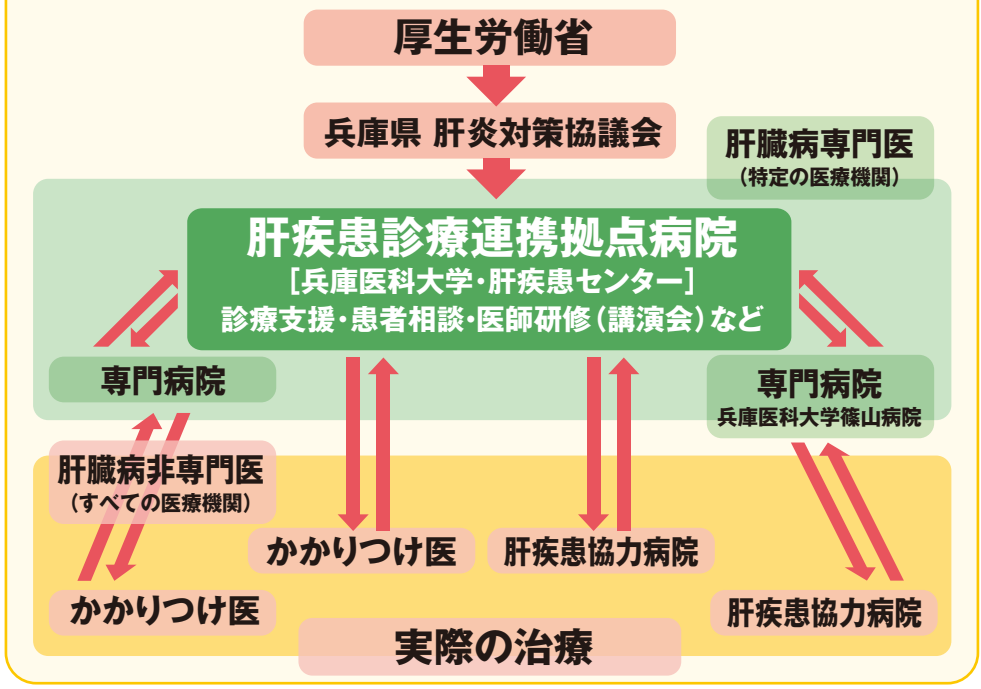
PEG・IFNとリバビリンの併用療法は有効性が高いのですが、残念ながら保険適応がありませんので、本学では治験薬を用いてウイルスの消失を図っています（図2）。また、肝臓の予後改善は、肝臓の治療以上に背景の肝病変の治療が大事です。肝臓を放射線科や外科で治療を受けられた方であっても、内科が肝硬変のコントロールを合同で行うことが理想的です。

最後に、肝疾患センターは産声をあげたばかりであり、また活動は限られています。しかし、兵庫県唯一の肝疾患診療連携拠点病院としての責任を果たすために、大学を上げて徐々に本センターの活動を広げてまいります。その詳細は本学病院の肝疾患センターのホームページにてお知らせしたいと考えております。ここには肝疾患治療に関する最新情報も掲載しておりますので是非ご覧ください。

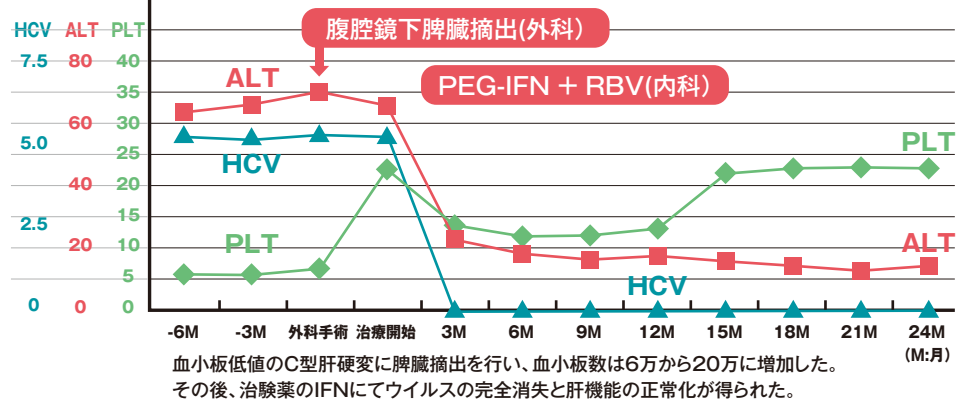


肝・胆・膵科
主任教授 西口 修平

（図1）兵庫県における肝疾患の診療連携と拠点病院の役割



（図2）当院における内科と外科の医療連携



まず、医療社会福祉部に肝疾患相談センターを設け、県民や医療従事者からの相談に応じています。専用電話（0798・45・6433）を1月26日に開設し、既に70件の相談が寄せられています。これらの電話相談の中で、より詳細な情報を求められた場合には、医師が個別で面談も行っています。相談内容の6割は、患者さんご自身の治療に関するものであり、本学や地区の専門病院への紹介やセカンドオピニオン外来への受診を勧めました。このため、本学のみなならず県下の全ての専門病院から詳しい情報を頂き、兵庫県において行われている先進医療の全ての情報を肝疾患に関する最高の医療を目指し、拠点病院の役割を担うために肝疾患センターが新設されました。

肝疾患センターの運営は、主に肝胆膵科、肝胆膵外科、および放射線科に所属する肝臓

専門医が本センターに兼務することにより、合同で運営を行います。さらに、多くの診療科の支援を頂き、拠点病院に求められる業務に幅広く対応いたします。

PEG・IFNとリバビリンの併用療法は有効性が高いのですが、残念ながら保険適応がありませんので、本学では治験薬を用いてウイルスの消失を図っています（図2）。また、肝臓の予後改善は、肝臓の治療以上に背景の肝病変の治療が大事です。肝臓を放射線科や外科で治療を受けられた方であっても、内科が肝硬変のコントロールを合同で行うことが理想的です。

最後に、肝疾患センターは産声をあげたばかりであり、また活動は限られています。しかし、兵庫県唯一の肝疾患診療連携拠点病院としての責任を果たすために、大学を上げて徐々に本センターの活動を広げてまいります。その詳細は本学病院の肝疾患センターのホームページにてお知らせしたいと考えております。ここには肝疾患治療に関する最新情報も掲載しておりますので是非ご覧ください。

平成21年市民健康講座のお知らせ

開催場所	兵庫医科大学 10号館3階 第3会議室	参加費無料
開催時間	午後3時～4時30分[午後2時30分開場]	申込不要(定員60名)
開催日	テーマ	講演医師
4月15日(水)	大腸癌の話	外科(下部消化管外科) 富田 尚裕 主任教授
5月13日(水)	運動は心臓病の救世主 ～正しい運動を続けることで心臓はよくなります～	内科 冠疾患科 高橋 敬子 講師
5月27日(水)	肝炎ウイルス対策の最新情報	内科 肝・胆・膵科 西口 修平 主任教授
6月10日(水)	内科からみた『めまい』	内科 総合診療科 川端 啓太 准教授
6月24日(水)	早期前立腺癌の治療と診断	泌尿器科 山本 新吾 主任教授

用語説明

HCV	C型肝炎ウイルス。 図2の数値はC型肝炎のウイルス量を示す。
ALT	アラニンアミノトランスフェラーゼ。ALTは肝臓に一番多く含まれており、肝臓に異常があって肝細胞が壊れると、血液中にALTが漏れ出してくる。基準値は5～40単位。
PLT	血小板数。出血を止めるために働く血球。脾臓で壊される。基準値は15～35万。
PEG-IFN	ペグインターフェロンのこと。インターフェロンの血中濃度を長時間安定に維持し、週1回の注射(皮下注射)で優れた効果が得られるように作られた新しいインターフェロン製剤。
RBV	リバビリン。 インターフェロンと併用することによりウイルス排除効果を増強する治療薬。